

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	胸部大動脈瘤に対する胸部ステントグラフト術後の 全生存と骨量減少との関連の検討		
1. 研究の目的と方法	胸部大動脈瘤に対する胸部ステントグラフト術（ステントグラフトを用いて瘤を裏打ちする術式）は、手術合併症や手術死亡の少ない術式であり、胸部大動脈瘤治療において大きな役割を果たしています。当初は開胸人工血管置換術（瘤を切開し人工血管に置き換える術式）を受けられない高齢の患者さんにステントグラフト術を執り行ってきましたが、近年ではより若年な患者さんもステントグラフト術を受けるようになっており、ステントグラフト術後の長期予後が注目されています。そこで、ステントグラフト術後の生命予後を予測する方法として、骨量（術前に撮像した CT から測定される骨の”丈夫さ”）に着目し、術後予後と骨量との関連を検証することが本研究の目的です。具体的にはカルテから情報を収集し、検証します。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2026 年 12 月 31 日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	2007 年 5 月 1 日～2019 年 12 月 31 日の間に東京慈恵会医科大学附属病院にて胸部大動脈瘤に対して胸部ステントグラフト術を行なった患者さんが対象となります。なお、未成年者は除外されます。		
4. 研究に利用する 試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	診断名、性別、年齢、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査）	
	(4) 情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3) の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 外科学講座 血管外科
		氏名	大木 隆生
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤 千弥	
	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	東京慈恵会医科大学 外科学講座 血管外科 笠 兼太郎	
	(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。	

6. 試料・情報を他機関とやり取りすることについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 試料・情報の利用開始予定日：2025 年 5 月頃～
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学 外科学講座 血管外科 研究責任者：教授 大木 隆生（おおき たかお） 窓口担当者：助教 笠 兼太郎（かさ けんたろう） 電話番号：03-3433-1111（内線 3401） 対応時間：平日 9：00 ～ 17：00

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。